

中庭のような部屋を持つ住宅

長谷川 豪
GO HASEGAWA著作権所有者の
都合により
掲出できません

北面全景

桜台の住宅

設計：長谷川豪建築設計事務所

著作権所有者の都合により
掲出できません

地方の閑静な住宅地に建つ、夫婦と子ども2人のための住宅である。この住宅地はおのこの敷地が広く、街全体が明るく恵まれた住環境である。施主夫妻は小学校の教師をしており、教材の準備などができるワークスペースが欲しいということと、子どもたちが完全に個室に閉じこもらずに、何となく家族の気配が感じられるような住宅が望まれた。

敷地のほぼ中央に四角い建物を配置して、建物の外周に庭をつくった。建物の1階を個室と水まわり、2階をLDKにして、更に建物の真ん中に全面トップライトを持つ吹抜けの部屋をつくり、その部屋いっぱい大きなテーブルを設けた。1階の各個室から、この大きな明るいテーブルを家族で囲んで使う。個室同士は建具で仕切られ、建具を開ければテーブルの周りをぐるっと回れる。また回廊型の2階は、内外に設けた大きな窓によって明るく開放的なLDKにしている。

1階のテーブルの部屋は、各部屋を柔らかく関係づけている。例えば個室にいる時には、テーブルから離れていれば他の部屋の存在は気にならないが、テー

ルに身体を近付けた途端、吹抜けや他の個室、2階のリビングと一体的になり、同時にあちこちの窓から青空や外の景色が視界に飛び込んでくる。このように1つの部屋にいても、自分の居場所によって部屋同士の関係や、外部環境との関係がバラバラになったり一体的になったりする。2階のリビングはひとつながりの空間でありながら一望できないために実際以上の距離感を生み、内外に設けた大きな開口を通じて、自分と対角線上にある部屋や風景まで視線が抜ける。1階の洗面室も2階のキッチンも回遊動線の中にあるため、洗面器やキッチン水栓などの設備機器はあまり存在を主張しないようなシンプルでコンパクトなものを選んだ。

ところで真ん中の部屋は、十分に大きなテーブルを介して家族が向かい合い、おのこの別々のことをしていても気にならない距離感がある。更に上空に青空が広がり、窓を介しているんな方向に外の風景が見えているため、外のように開放的な空間になっている。このような距離感と開放性を持った空間というのは、

空間を共有しているながら、それぞれは無関係に過ごすこともできるような自由さがあり、それは住宅の居室というよりも、むしろ図書館や公園のような“公共性”を持った空間に似ている。住宅においても、このような空間の“公共性”について考えることで、今までと少し違った空間の自由度が生まれる気がする。*

はせがわ・こう—建築家/1977年生まれ。2002年、東京工業大学大学院修士課程修了後、西沢大良建築設計事務所。2005年、長谷川豪建築設計事務所設立。
主な作品：森のなかの住宅（2006）、桜台の住宅（2006）、五反田の住宅（2006）など。

■建築概要

名称：桜台の住宅
所在地：三重県四日市市
家族構成：夫婦+子供2人
敷地面積：246.42㎡
建築面積：89.13㎡
延床面積：138.88㎡
規模：地上2階
構造：木造
工期：2006.5～2006.10
設計：長谷川豪建築設計事務所
施工：上村工建
●INAX使用商品●水栓金具：JF-1450SX（JW）、洗面器：GL-543/BW1ほか

1階のテーブルの部屋を見下ろす。テーブルが部屋いっぱいに設けられている。天井は全面トップライト

著作権所有者の都合により
掲出できません著作権所有者の都合により
掲出できません左—2階リビング
下—1階洗面室